書式 7

助成番号	20－A16

成 果 報 告 書

記入日 2022 年　4 月　5 日

フリガナ：(フクモト ユウガ) 氏　　名：福本 悠河	渡航先国名 中国・台湾	留学先の所属機関：国立台湾大学 帰国後の所属機関：神戸大学

研究テーマ：イギリス統治下の香港の都市計画と日本統治下の台湾の都市計画の比較分析

研究期間　：　　2021 年　9 月 ～　　2022 年　1 月（　　5 ヶ月）

研究成果（概要）私の国立台湾大学への 5 か月間のオンライン留学の研究成果は三点ある。まず、簡単な台湾語での会話が出来るようになったことである。次に、19 世紀後半から 20 世紀前半までの第二次世界大戦前の日本の文献をスムーズに読めるようになったことである。そして三点目の研究成果はイギリス統治下の香港の都市計画と日本統治下の台湾の都市計画の比較分析の論文執筆である。

研究成果（詳細）

私の国立台湾大学への 5 か月間のオンライン留学での研究成果と、オンライン留学で直面した問題点および改善方法を以下に述べる。まだしばらくコロナ禍は続きそうであるため、現地への留学がどうしても出来ない今後の奨学生たちの一助になれば幸いである。

私の研究成果の一つ目は簡単な台湾語での会話が出来るようになったことである。台湾語（中国語）において最大の難関とされる発音から始め、可能（會、可以、能）の文章を話すことが出来るようになった。街での買い物や生活において使う上では困らない程度である。当初の研究計画において、前半の半年間は言語習得に専念するとしており、実際にオンライン留学開始から 5 ヶ月間の成果としては十分であると考える。しかし言語習得においてもオンライン留学による問題点があった。アウトプットとして実際に使用する場面がほとんど存在しないことである。授業後の友人との会話や日常的な買い物での会話などの場面がない。授業直前に接続され、終了するとミーティングもすぐに接続終了するため、クラスメイトと連絡先を交換するタイミングも存在しない。インプットした台湾語を実際に話す機会が極めて少なかった。解決策として、事前準備の重要性を強調したい。例えば、あらかじめ先生に連絡先を交換する時間を設けて欲しいと伝えておく、Instagram のアカウントを作っておく等が考えられる。私は 5 ヶ月間、常に連絡先交換のタイミングを探していたが、そんなタイミングは中々なかった。画面越しであるが故に連絡先を交換するのにも時間がかかるため、結局誰とも連絡先を交換することが出来なかった。オンラインとはいえ留学出来るのであれば、初期にこのようなアクションを取ってほしい。

次に、私の研究成果の二つ目は、19 世紀後半から 20 世紀前半までの第二次世界大戦前の日本の文献をスムーズに読めるようになったことである。計畫という二文字を見て、以前は計算なのか計画なのかそれ以外の全く違う漢字なのか断定できず、資料を読むのに非常に時間がかかっていた。中国語学習後は畫に描くという意味があることを知っているため､意味や音から連想することが出来るようになった。これによって台湾総督府の資料等を読み進める速度が非常に速くなった。

そして私の三つ目の研究成果はイギリス統治下の香港の都市計画と日本統治下の台湾の都市計画の比較分析をした論文の執筆である。台湾総督府総督官房文書課や台湾総督府内務局土木課の記した資料、先行研究を基に比較分析を行った。しかし残念ながら現地に入国することは出来なかったため、フィールドワークを行うことは出来ず、資料研究のみとなった。具体的には下記のような論文を書いた。日本統治下の台湾や台北において、都市計画が施行された過程について整理すること及び、日本統治下の台湾の都市計画と同時期のイギリス統治下の香港の都市計画とを比較することで、こうした都市計画がもたらした植民地の社会変化や居住分化の相違点を明らかにすることを目的とした。前者の目的に関して、具体的な都市計画法の実践や、都市計画が社会に与えた影響について既存研究や台湾総督府の資料を基にまとめている。また後者に関して、植民地での都市計画という研究分野において、イギリスあるいは日本のようなある一国が実施した一連の都市計画についてその変遷や社会的意義を調べた研究は豊富にある。さらに、19 世紀後半から 20 世紀にかけての都市計画法の発展や変遷について、欧米や日本で実施されたものを比較する先行研究は非常に多い。一方で、こうした国々が植民地で実施した都市計画やその社会的影響、計画施行の背景にある宗主国の意図などについて比較した研究は管見の限りなかった。私の研究はこうした植民地の都市計画を宗主国との関係に注目することにより、旧植民地都市のその後の発展に与えた影響を考察する一助にしたいと考えた。

以下には先行研究に対して特に示しておきたい新しい知見となる部分のみを抜粋して記す。日本の台湾統治に関することについて私が新しく示した点は以下の通りである。台湾統治において最初に最も困難な出来事となったのが、官舎として用いるのに適切な建築物や家屋がなかったことである。既存の政府機関の建物は古いことに加えて構造が不完全であり、また一般民家は軒が低く、窓は少なく、採光や通風のいずれもが粗悪であるにも関わらず防湿の設備もなかった。これらが健康被害に繋がっていることは明白であり、優先事項として住居等の新築が進められた。改築が必要であると判断された建物の総床面積は 58888 坪（約 194671.1 平方メートル、約 19.5ha）に及んだ。

さらに、私の研究の主要な部分である比較分析の要約を記す。日本統治期台湾で施行された都市計画とイギリス統治期香港で施行された都市計画の比較を通して得られた知見は以下の通りである。第一に、日本が台湾で施行した都市計画はそれ以前の植民地統治における都市計画の反省を踏まえたものであると考えられる。イギリス統治当初の香港では都市計画の策定に先行して商人達による住宅建設が無秩序に進み、植民地政府は後手に回った。さらに土地所有に関する調査が行われたのは都市計画が実施された後だった。一方で台湾では、統治開始年には市区改正計画を担うための機関である台北基隆市区改正計画委員会が設置されており、また、事前調査に基づいた都市計画が実施されていた。ただし、統治が始まった年が 50 年ほど異なることに注意する必要がある。第二に台湾に比較して香港で治安維持に長く取り組む必要があった原因が以下の二点にあると考えられる。一点目が香港の中国本土との地理的距離による反英気運の影響の受けやすさであり、二点目が台湾では植民地統治機能を担う空間の創出によって民衆の心のあり方にまで介入しようと試みていたことである。イギリスが香港において日当たりや風通しの良さを重視した上で無秩序に建設を進めていったことに対して日本は都市計画に基づいて建築を進めただけでなく、植民地政府機関を集中させ、思想を定めることを意図して宗教空間を作り上げていた。第三に、植民地内で施行される都市計画の近代化において、香港でゾーニングが施行される時期と台湾で地域地区制が施行される時期に大きなずれがある。香港では 1843 年にはゾーニングが行われてい

た一方で、ゾーニングと似た効果を持つ地域地区制が台湾で設定されたのは 1936 年台湾都市計画令からである。第四に、香港、台湾いずれの植民地においても、現地の住民の衛生観念の抜本的な改善が必要であったためになかなか公衆衛生が向上していかなかった。香港ではオープンスペースを設けること、台湾では空地を設けることが義務付けられており、衛生問題の対処の狙いが含まれていたと考えられる。第五に、イギリスが統治する香港で一般市民の住居のための都市計画や政策は 1920 年代から進められることに対して、日本の台湾統治において真っ先に取り組まれたのが建造物の刷新であり、その中には非常に多くの一般市民の住居も含まれていた。このような時期の違いが発生した要因に、宗主国の人々の定住化の過程の違いが影響したと考えられる。香港においてイギリスの人々は日当たりの良さと風通しの良さを考慮して新しく街区を建設したのに対して、台湾において日本の人々は従来の建造物を利用しようとしていた。こうした宗主国側の意図の違いが、一般市民に対する住宅政策の実施時期の違いにつながったと考えられる。第六に、イギリスによる香港統治、日本による台湾統治のいずれにおいても宗主国の人々を優先した都市計画が施行されていた。一方でイギリスは香港で人種隔離を公認する都市計画の条例を施行していたが、日本は台湾で都市計画法に明文化していた訳ではなく、実際の植民地経営の進め方の中にそうした意図がうかがえる。以上が私の三点目の研究成果である比較分析の結果である。先述の通り、植民地期の複数の国々や地域の都市計画の比較分析はまだまだ研究の余地がある分野であり、今後も研究を続けたい。

留学中の生活・研究でのトピックス

留学中の生活、研究のいずれにおいても、オンライン留学の場合は非常に質が低下する。その中で、特に私の記憶に残っている点を記述する。まず留学中の研究でのトピックは、台湾語の繁字体を学習したことで 1945 年以前の日本の文書がスムーズに読めるようになったことである。私が中国語を学習する目的には全く含まれていなかった。しかし、学習の副産物としてもたらされた。また、生活でのトピックは全く友人が出来なかったことである。私はコロナ前にドイツに 1 か月間の短期留学していたことがあり、その時はドイツ語が話せなくても友人ができ、3 年弱経過した現在でも稀に連絡を取り合っている。国立台湾大学へのオンライン留学は 5 か月あり、日本人も居て日本語を使うことも出来たが、しかし今でも連絡を取り合うという友人は出来なかった。実は、連絡先を交換するタイミングが無かった。これは勇気や積極性などの気持ちの問題ではなく、講義直前にオンラインミーティングツールが接続され、講義終了後は速やかに接続が切られ、画面越しであるがゆえに連絡先の交換に時間がかかるためである。今後の奨学生でオンライン留学となった方々は Instagram や Twitter などの簡単に連絡先を交換できる SNS のアカウントをあらかじめ用意しておくと良い。

今後の社会貢献

私は IT システム導入によって人々の生活の向上に貢献していきたい。現在、IT システム導入のコンサルティングをしている。留学期間中に習得した台湾語をより習熟させ、国内・海外問わず IT システム導入で活躍していきたい。人々の希望に沿った IT システムを導入して余分な業務の負担を減らすことで、人々はより自分のやりたいことに集中できるような社会になると考えている。そのような社会実現のために精進したい。